

4年生に聞いてみた 日本語日本文学科で身についた 力は？

言葉を深く理解し 自信を持って発言する力

日本語日本文学科の演習授業では、学期中に1度は必ず発表の機会が設けられており、扱う作品に対する自分の考察や意見を述べたり、学生同士で意見を交換したりします。

就活の面接では様々な質問が出され、企業によってはグループディスカッション形式で緊張したこともありました。その中でも、自分が「聞かれたことは何か。」「どのような言葉で伝えるか。」などをよく考えることができ、また、自信を持って言葉にする力が身についたと感じています。



さまざまな情報を 客観的に分析する力

日本語日本文学科では、さまざまな論文を読む機会が設けられています。同じ作品や題材を取り上げていても研究者によって様々な意見があるため、「この論文で、論者は何を強調したいのか。」「A論とB論の共通点、相違点は何か。」などを分析する力が自然と身につきました。



自分の意見を持つ訓練

就職活動では、自分の意見を尋ねられる機会が多くあります。

なぜ弊社に？なにがやりたい？どうして？

自分の意見を持つ訓練ができていない人は意外と多く、さらに人に説明するとなると余計に苦戦する人がほとんどです。しかし日本語日本文学科で4年間学んできた私は、難なく答えることができました。まず自分の考えを持つこと、それを根拠を持って論理立てて説明すること、全て日本語日本文学科でやってきたことだからです。日本語日本文学科に進学することを選んだ当時の自分、ナイス！



気になったことを自分で調べる行動力

気になったことをとことん調査、考察する姿勢は強みになると思います。

自主ゼミなどさまざまな活動に意欲的に参加したことで、良い刺激になったし、多くの経験をすることができました。(実際に公演を見たり、博物館に行ったりと、学割を有効活用してほしいです！せっかくの機会なので！)

いくらでも独自に学びを深めていくことができる分野なので、取りくんだ分だけ自分の経験にすることができたというのも自信につながりました。